

橋本市が NO.1 になるための取り組みについて、下記に記述してください。

1. テーマ
「外国からの知名度 NO.1」
2. 目的・ねらい (why)
日本国内での橋本市の知名度は、極端に低い。 日本国内向けに橋本市を PR しても同じ国内では、橋本市より魅力ある地域が多すぎる。 そこで海外向けの PR を行う。なぜなら日本の自治体は、海外向けの PR が下手なので、他の自治体よりも先取りして、橋本市の PR を仕向けていく。 ※ 米 CNN の英語圏向けの旅行情報サイト「CNN トラベル」では、敢えて和歌山県に注目している。これを活かす手はないと考える。
3. 課題 (what)
それぞれの国々で日本に対するイメージが違いすぎる。 ある程度、主要国を選んでその国に対し、日本に対するイメージに近い PR を仕掛ける必要がある。
4. 対象者・対象範囲 (who・where)
韓国・・・旅行者の7割が個人旅行、6割がリピーター。「食事」「温泉」を好み、また「ゴルフ」「登山」等のアクティビティも好む。 6割がリピーターとあることから、知名度を上げる効果が期待できる。 アメリカ・・・個人旅行の自由度が高い。また、友人・親戚からの紹介による口コミを有力視する傾向にある。 また、SNS 特に Facebook については、全世界ユーザーの30%が米国人であると言われ、口コミ情報は強力な発信力。 オーストラリア・・・「和食を食べたい」とか、「着物や浴衣を着てみたい」など体験型を志向する意見が多い。体験型のアクティビティを付した PR が有効。 また、訪日旅行では滞在日数が平均 10～14 日程度と長いため、PR 次第では橋本市に足を伸ばしてもらえるチャンスもあり、メリットが大きい。 アジア・・・3・4月のイースター休暇を利用した桜や 10月の紅葉を目的とした旅行者が多い。観光客の9割以上が個人旅行。 また、近代的な旅館よりも小規模で風情のある和風建築の旅館

を好む傾向があり、旅程の一部に温泉体験を組み込みたいという希望は多い。

さらに日本文化を紹介するイベントでは欧州最大といわれる「Japan Matsuri」や「Hyper Japan」がロンドンで開催されている。知名度をあげるための機会としては最高。

ツカホール・5月下旬から6月中旬の夏休み、11月中旬から12月の冬休みの時期に家族旅行が基本。

温泉、お城など当たり前のセールスポイントでは、他自治体との差別化はできないし、かなわない。

子供が楽しめるという視点に特化し、家族で楽しめる農産物の収穫体験や釣り体験などを前面に押し出すPR方法が有効。

外国・・・全般的に東京・大阪・京都・広島のJ-ルート旅行したり、調べる傾向にある。それだけ他の地域の知名度が低い。

ただ、ネットで調べる傾向が非常に高いので、そこに照準をしばりPRするのが、得策かと考えられる。

また、アルゼンチンやオランダなど親日的な国に焦点をさぼる。

5. 実現手段・内容 (how)

4. で上述した内容にプラスして、主要国が持っているそれぞれのイメージに適した地域であることをうまく誘導する。

特に欧州では、日本をアニメ、コスプレまた侍（武将）、寿司、盆栽といった固定単語のイメージで持っている傾向にあるので、橋本市またはその近隣をアニメの舞台に採用してもらったり、世界的に有名な真田幸村ゆかりの町が隣にあるので、タイアップした企画を興す。

海外の旅行の旅行サイト、ニュースサイトに橋本市や橋本の情報発信サイトをリンクし続けることで、知名度を向上させる。

また、人魚のミイラが日本書紀にも登場し、橋本市においては、有形民俗文化財にも指定されている学文路にある最古の人魚のミイラをその筋のサイトなどに前面に出しつつ、橋本市の情報を付して投稿することで、ネット業界を沸き立たせ、橋本市を有名にしていく。

さらに他で提案するCMに字幕を付けて配信し、知名度を上げる。

6. 実施時期 (when)

今からでも

7. 実現するための体制 (who)

- ・ 広報、商工関係を中心に本市の職員、また各種団体・個人の協力が必要
- ・ 海外各メディアの日本支部などに情報発信の協力が必要

- ・また、海外メディアで活動する日本人に直接連絡し、配信手段を模索する。
- ・各国言語ができるスタッフが必要。

8. 効果

- ・海外での知名度が上がることで、国内で無名であった橋本市が有名になる。
- ・橋本市及びその近郊地域の経済状況が少なからず活性化する。
- ・多様化する情報マルチ時代の先駆け的自治体になる。

9. その他

- ・職員のやる気次第。
- ・自己防衛にばかり目を向けず、果敢に挑戦する姿勢が必要。
- ・あれもこれもと情報発信しがちだが、それぞれに対し、的を絞って簡潔且つ明瞭にする。
- ・主要各国に橋本市の親善大使を設けてみる。例えばブロガーなど。